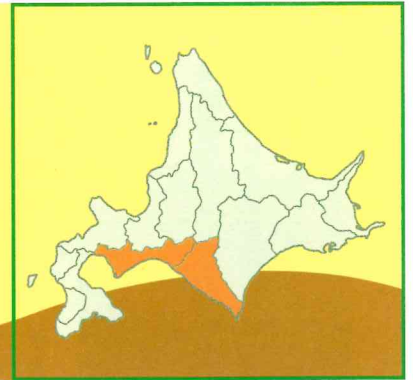


山つくり



題字 元北海道知事 堀 達也 令和5年1月1日／公益社団法人北海道森と緑の会誌



園舎の中でも木登り！（写真提供：浦河フレンド森のようちえん（撮影：古瀬 桂 氏））

contents

コンテナ苗の利用促進について 北海道水産林務部林務局森林整備課 課長補佐 関根 進 …… 2	馬と共に歩む～馬搬という仕事 西埜馬搬 西埜 将世 …… 10
苫小牧広域森林組合新製材工場完成にあたり 苫小牧広域森林組合 …… 4	～日高管内の森林組合代表理事組合長のご紹介 シリーズその4～ 地域林業活性化のために 日高東部森林組合 代表理事組合長 森 政巳 …… 11
道内最古のカラマツ（月浦森林自然公園） 洞爺湖町経済部観光振興課 …… 5	オオコノハズクの繁殖誘導を利用した野鼠対策 —平取町における生物的防除の試み— シマフクロウ環境研究会 代表 竹中 健 …… 12
令和3年度全国山林苗畑品評会「農林水産大臣賞」受賞 壮瞥町 長沢 勇一氏 胆振総合振興局産業振興部林務課 …… 6	エンジンオーガーを使用したカラマツ裸苗植栽の試み 沙流川森林組合 森林計画係長 川端 純 …… 14
令和4年度 全国林業経営推奨行事「農林水産大臣賞」受賞 白老町（指導林家） 桔梗原 和夫さん …… 7	「不都合な園舎」と「かしの森」 学校法人フレンド恵学園 浦河フレンド森のようちえん 園長 伊原 鎮 …… 16
令和4年度「森と人を育てるコンクール」受賞者紹介 トマツの部 最優秀賞 日高町 馬場 富士雄 さん …… 8	加入してよかった！ 森林保険 …… 18
トマツの部 奨励賞 豊浦町 加藤 清 さん …… 9	図書を紹介 ◎公益社団法人北海道森と緑の会・発行 …… 19



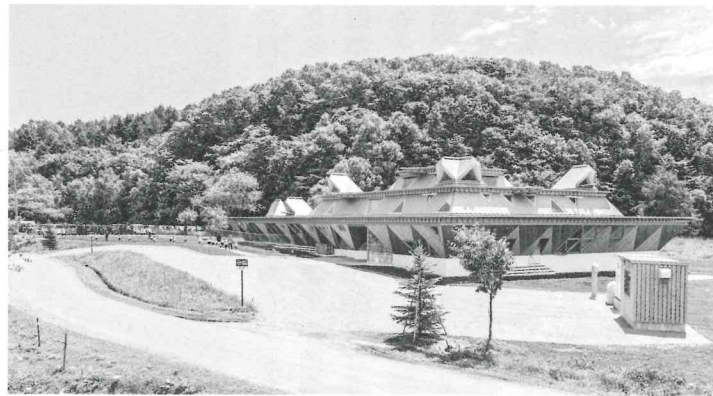
「不都合な園舎」と「かしの森」

学校法人フレンド恵学園 浦河フレンド森のようちえん 園長 伊原 鎮



今年2月、約8ha

の森と隣り合わせの土地に本園の新園舎が建ちました。私が誇りをもつて「不都合な園舎」と呼ぶこの建物と本園の子ども達の遊び場である「かしの森」について語りたいと思います。



北海道建築賞を受賞した園舎とかしの森

▼不都合な園舎

総工費約6億円をかけて建てられた園舎は、道産カラマツ材の柱を組み上げた立体トラス構造の木造建築です。新園舎建設プロジェクトが始まった当初、私は建築家の照井康穂氏に「壁

のない「木造」の園舎にしたい旨を伝えました。そして、壁のない大空間を支えるための多数の柱が床から斜めに伸びる、独創的な建物が完成しました。木の肌触りや香り、漆喰の壁、窓から見える木々や芝生、三角窓から差し込む日の光などが心に安らぎを与えてくれる建物です。では、この園舎の何が「不都合」なのか。この場合の「不都合」とは、「大人にとっては、不都合に感じる部分がある」ことを指しています。例えば、床から斜めに飛び出す柱は、気を付けないと頭を痛打する障害物とも捉えられます。壁がない故に、教育や保育の「当たり前」を考えると直す必要に



不都合な園舎

▼子どもの都合

迫られます。また、収納スペースに限りがあることやデッドスペース(有効活用ができないと思われる空間)が多いことは、非効率に感じられます。

私は、この「不都合な園舎」との出会いに感謝しています。それは、この建物が【自然と人間を愛する共育】という私たちの法人が掲げる理念を体現しているからです。

現代社会では、「子どもの都合」は無視され、効率性や経済性などに象徴される、大人にとって都合の良いものが優先されることがほとんどです。しかし、それでは、子ども達の幸せは実現できないと思っています。私たちにあって、「手間のかかること」、「面倒くさいこと」が、子ども達の幸せにつながるはずなんです。

この園舎が「不都合」だとすれば、それは、「子どもにとっては都合がいい」ということです。効率性や経済



子どもの心と身体、五感を育てるフィールド

性、合理性など、これまで「善」とされてきた価値観のもとに建てられた園舎ではなく、この建物の中で生活する子どもも大人も尊重する「人間尊重」の建物である、と私は本園舎を捉えています。そのようなことから、本園舎は我々の理念を体現していると思うわけです。

同じ理念の中で使われている「共育」という言葉は、「共に育ち、共に育てる」ことを意味します。人間の子育てというのは、皆が協力して行うように進化してきました。故に、子育てを親など特定の人にのみに任せるのではなく、「皆が参加する」ことが自然であり、大切です。世間から「子育て」が切り離されたことが、少子化や若者の自殺などの社会問題の大きな要因であると言えるのではないのでしょうか。ですから、私たちは「地域の人たちと共に社会の宝である子ども達を育てる」ことを目標に掲げています。

▼「子育て」「森育」と「かしの森」

以上申し上げたことについては、「子ども」・「子育て」を「森」・「森育て」（注：私の造語です）という言葉に置き換えて考えてもよいのだからと思います。森を経済性や合理性の面からみるのではなく、森は私たちに喜びや幸せを与えてくれる地域の宝であるという認識のもと、地域の方々と一緒に森を育てるということを目指したいと考えています。

その舞台となる森を私たちは「かしの森」と呼んでいます。子ども達が安全に過ごせるよ

う森林を整備する目的で、任意団体「かしの森とこども会」を2020年に立ち上げました。樹木医による森の調査を実施し、その結果をもとに森の手入れを継続して行っています。

この会では、地元の方々が参加する講習会や森林整備を通して、会員同士の交流を深めてきました。時には馬搬も行っています。また、森林整備の過程で出る木材を利用した薪割りやたき火、樹皮剥きなどの体験を楽しむ「循環型」イベントを園児の保護者や地域住民対象に定期開催しています。このようなイベントを通して、より多くの人に森の心地よさや「森育て」を体験してもらいたいと思っています。

このような体験活動は、本園の園児にとつては日常的なものです。さらに多くの人々に「参加したい」と思ってもらえる活動にしていきたいことが目標です。なぜなら、私たちは「かしの森」を単に

「活用する存在」として捉えるのではなく、「手入れ、育てる存在」として捉え、「森育て」をしたいと考え



馬搬の様子

それは私たちだけでやれるものではありません。子育てと同じように、地域の方々にも参加していただけるものを目指しています。そして、その目標を実現するには、地域の人々にとつて森が身近な存在になることが肝心だと思っています。

▼共育の場としての森とその可能性

「子育て」と「森育て」はとても相性のよい組み合わせであると感じています。かわいい子ども達が遊ぶ森に大人が集い、子育てと森育てが日常的に行われている風景を想像するだけでワクワクしてきます。

また、どちらも、終わりのない、将来に引き継がれていく営みであるという点で共通しています。これからも、未来に明るい希望をもって、皆で楽しみながら「子育て」と「森育て」に情熱を注いでいきたいと思えます。そして、この取り組みは、地域を活性化させる大きな可能性を持っていると確信しています。



未来につなぐ森